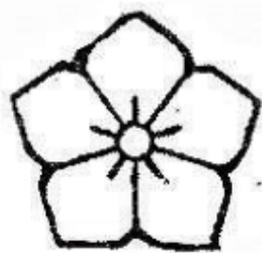


龍岳山歡喜院龍圓寺



新久觀音

## 新久千手観音縁起（平成二十年三月二十九日）

武蔵野能西涯に一の桃源郷阿里 新久と呼ぶ 民俗敦くし天 生業盛奈李  
其龍園寺乃観世音は 由緒詳奈ら祢登 古老の口碑に与連者 行基菩薩乃作  
にし天 堂宇は土御門帝の建仁元年六月 寂蓮法師か巡行乃節建立したる  
毛乃奈里登曾 爾来星移り物換里天 興廃常奈ら須 云々

右は、観音堂左手前の、「観音堂再建記念碑」（大正四年五月建立 住職 太田政厚師）の冒頭部分である。碑文には、「観音像の由緒はよく判らない。行基菩薩の作と言われて来た」とされているが、江戸時代、文化・天保の頃に調査、編纂された「新編武蔵風土記」には、「金ノ立像ニテ長三寸許、コノ観音ハ小名田谷ニアル古井ヨリ出シ由ヲ伝ヘリ」とある。何れにしろ、秘仏観音像の痛みを鑑み、お堂と共に新像をお祀りする事になった。

観音堂は、建仁元（一一二〇）年六月 寂蓮法師が巡行の折に建立されたとある。その後、『明治三十四年三月二十六日 祝融能災にかかり天一朝烏有に帰し多留者 惜美天毛余り安留古登に故曾』とあり、火災に遭い大正三年二月に再建された経過が綴られている。焼失したお堂は、江戸時代の安永十年（一七八一年）四月に元矢寺村（今の入間市宮寺）の宮大工・吉川兵庫棟梁の下で再建されたという。前堂宇の棟札からは、お堂が寛保元（一七四一）年に、三ヶ島村の湯殿山照明院（湯殿権現信仰の寺）の客殿として建てられた物と判明。つまり、お堂は約二百六十五年前に三ヶ島村に建てられ、凡そ九十年前に新久の龍園寺へ移築されたのである。

龍園寺の開創に、確かな記録はない。右の碑文には、「建仁元年六月 寂蓮法師か巡行乃節建立」と在るが、これは観音堂のこと。寺にある『墓籍簿』で、最も古い歿年月日に「明応五（一四九六）年」があり、天正・慶長年間（一五〇〇年代）の物もある事から、

西暦千五百年頃には新久に人が住んでいたと言えそうだ。明治八年六月に新政府の承連により編集された地誌『武蔵国入間郡村誌』の「巻之二・新久村」には、次の記載がある。

仏 寺 龍圓寺 東西三十五間、南北三十五間、面積千八百八十五坪。村の中央にあり

新義真言宗高麗郡新堀村聖天院の末派なり。応永年中権大僧都法印傳榮 開基創建す。

其後衰微せしを以て宝永五年僧俊誓中興す。 風土記に寺領十五石は境内の観音堂料

に玉ひしよし、慶安・貞享中御朱印を賜りし事を載す。

つまり、龍圓寺は、応永年中（室町時代・一三九四〜一四二七年）に傳榮と言う僧侶により初めて建てられたというのだ。「文政九（一八二六）年五月写」と裏書のある『当山代々先師過去靈簿』にも、「当山開基権大僧都卷世傳榮」とあり、当山七世の所に「当山法流開祖傳燈大阿闍梨俊誓」と記されている。

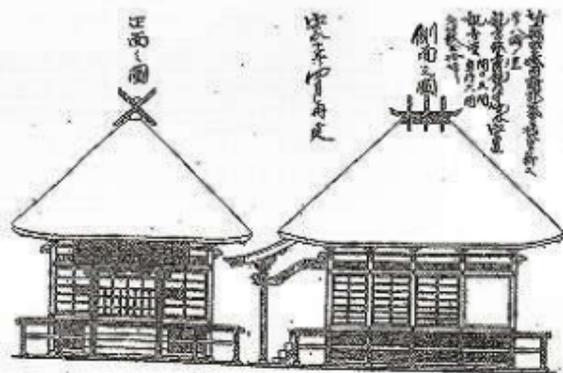
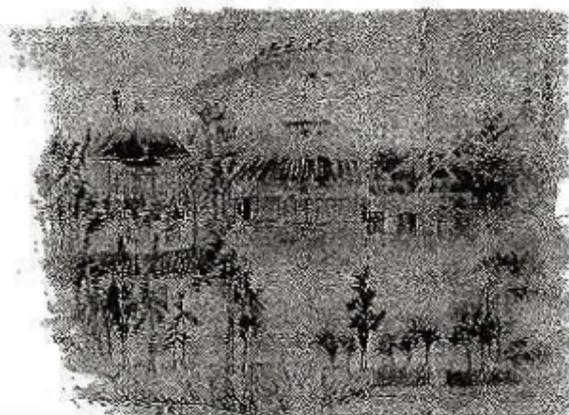
ここに新観音堂の落慶を迎えるに当り、その経過を辿ってみると、今から凡そ二十年前、まだ先代の政快和上存命の頃、墓地の拡張を機に改築をの声があつたようだ。が、財源的に無理で、浄財を集めてでも改修をと言う話になつたのが十五・六年前の事だった。

平成十八年一月八日の大字新久代議員会・初集会に「新久千手観音堂建設」についての新久社寺総代会の意向が示され、全年二月五日の同会で賛同を得て、建設委員の選定・建設委員会の結成となり、奇しくも当山が百五年前に火災に遭つた日・全年三月二十六日に第一回建設委員会が開催された。金子俊雄委員長の下、役員会が重ねられる中、相談役が決まり、設計管理者が選定され、規約・構造・規模・予算・建設資金の確保・工事日程等が協議された。八月に趣意書が大字新久地区とその他の檀家に届けられ、勸募金の申込・納入を始めてもらい、九月には建設業者等の選定・依頼が行われ、平成十九年一月に施工業者との契約及び一部支払いがなされた。

一月二十一日に前観音堂修葺式、二月九日に飯堂の入魂、三月十日に地神祭、七月六日に上棟式と建設工事に対応した儀式等を進めてきて、現在、三月二十九日の落慶に向けて記念碑・参道工事・稚児行列・記念法要・記念式典・祝宴の具体化を進行中。

新観音堂は、周りを築山とお堂に囲まれている。築山には、馬頭観音・十一面観音も祀られて、新久千手観音の子安・子育てのご利益に更なるご利益を加え、昭和十二年建立の北狭山茶場碑は、地場産業の歴史を伝えている。先の碑文にもある様に桃源郷の新久の地や龍園寺の檀信徒の皆様方の上に、新久千手観音の将来擁護の光が遍く、照り注ぎ、愈々榮え益々安からん事を祈念しています。

龍園寺第二十六世 新井晋学識



上、明治二十一年頃画いた、龍園寺全影  
下、安永十年(1781)四月再建された観音堂図面